

防災から減災へ

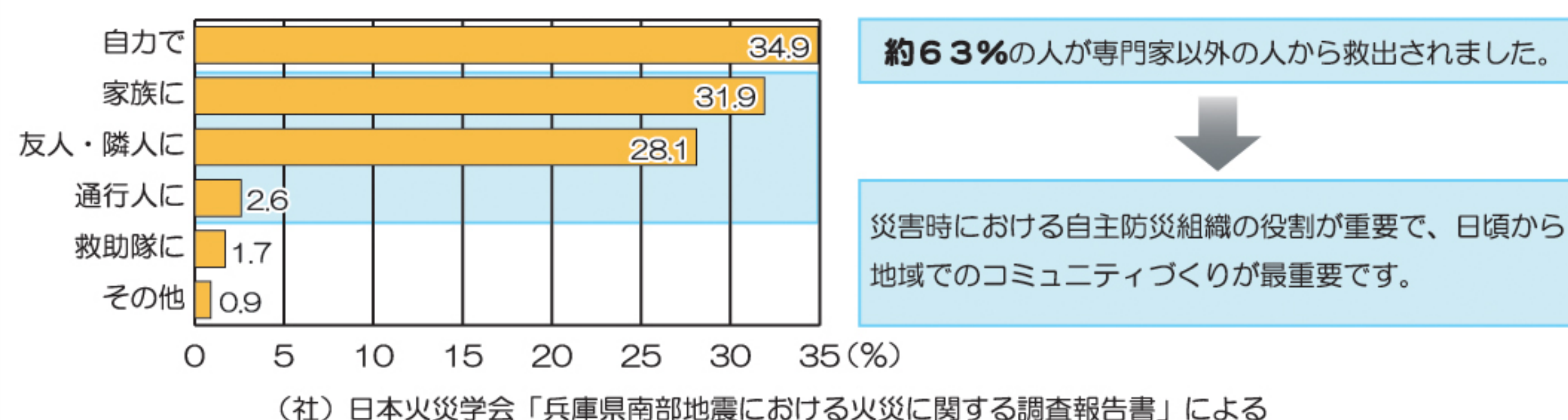
地震を防ぐことは出来ません。しかし、被害を少なくする方法があります。

被害を最小限にするためには、「隣、近所の助け合い（自主防災組織）」が大切です。

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で、家屋の倒壊や家具の転倒落下等により生き埋めになった人に対して、誰に救助されたかアンケート調査を行っております。

調査結果では、自力で脱出した人（34.9%）、家族に助けられた人（31.9%）、友人・隣人に助けられた人（28.1%）でした。

また、専門の救助隊に助けられた人はわずか1.7%という結果で、専門家による救援を受けることが難しかったことがわかります。



自主防災組織とは

災害時には、出火の防止、初期消火、避難誘導、被災者の救出・救護など自主的な防災活動が何よりも大切です。

こうした初期の災害への対応にちからを発揮するのが、地域の人々でつくる自主防災のための組織（自主防災組織）です。

「自分たちの地域は自分たちで守ろう」という意識をもって自主防災組織を結成し、消火、避難、救出などの訓練を行い防災活動に取り組んでいきましょう。

自主防災組織の日常活動

いざというとき自主防災組織が有効な活動を行い、被害を最小限にしたいとめるためには、地域住民が防災知識を習得し、災害に備えていることがもっとも大切です。

そのためには常日頃からの地域ぐるみの普及活動が欠かせません。

具体例

- 消火・避難・図上・炊き出し等の訓練の実施
- 防災意識啓発・高揚のための講習会の実施
- 地域災害史や体験談の掘り起こし
- 地域内危険要因や危険箇所の調査とその周知徹底



Q: そもそも津波ハザードマップとは、どのようなマップなのでしょうか？

A: 地震発生後、津波がいつ、どこまで、どの程度、やってくるのか、避難目標地点や避難スペースはどこか、などを図面に表示して、津波による被害を最小限にすることを目的とするものです。

Q: 今回の津波シミュレーションはどのような条件で行っているのですか？

津波による浸水域が広すぎるような気がするのですが。

A: まず、シミュレーションの条件は、次のとおりです。

1. モデルは宝永地震（1707年）
2. 満潮時（T.P.+0.8m）に津波が発生したと仮定
3. 地震による地盤変動は考えない
4. メッシュの大きさは5m（⇒下川・王子川等の小河川からの浸水を知ることが可能）
5. 地震発生から3時間分を計算 ※T.P.・・・東京湾平均海水面

次に、浸水域についてですが、モデルとなっている宝永地震は、マグニチュード8.6と、有史上一番規模の大きかった東海・東南海・南海地震と言われており、その地震が満潮時に発生したという条件なので浸水域が広がっています。

Q: 津波ハザードマップはどのような経過で作成されたのですか？

A: まず、ハザードマップの作成に際して、各自治会長さん対象の津波説明会を1回、住民対象の津波説明会を2回開催しました。次に、津波シミュレーションの結果、津波による浸水が予想される自治会に関しては、自治会長さんと役員さんにワークショップに参加していただき（計9回）、その結果を各自治会で再度検討していただいて完成したのが今回のハザードマップです。

Q: 市の津波シミュレーションと県の津波シミュレーションの結果が異なるのはなぜですか？

A: 津波の大きさは、同じマグニチュードの地震であっても、実際に津波が発生する場所（波源域）が異なれば、違ってきます。例えば、県が作成したシミュレーションと市が独自に作成したシミュレーションとを比較すると、想定している地震の大きさは、マグニチュード8.6と同じ大きさの地震になっていますが、津波の発生する場所（波源域）が異なるために、津波が陸上に浸水する範囲が異なっています。県よりも市のシミュレーションの方が、津波の影響が大きくなる場所を想定しているため、浸水範囲が広がっています。

Q: 最大浸水予測図とはこういった図ですか？

A: 最大浸水予測図とは、ある一定の時間内に津波が何度か押し寄せてきた中で最大となる浸水の結果を地図上で表したものです。今回のシミュレーションでは、計6回の津波が押し寄せた中で最大波の結果を地図上で表しています。よく、一度に津波が押し寄せた結果が掲載されていると誤解されている方がいますが、あくまでも津波が何度か押し寄せた結果を表していますので、ご注意ください。

Q: 過去に発生している南海地震津波（安政南海地震津波・宝永南海地震津波）が御坊市でどこまで来たかという数値（21ページ参照）は正確ですか？

A: お寺の古文書等に掲載されているものを参考に作成しています。

当時（宝永地震：1707年、安政地震：1854年）と現代とでは、環境条件（海岸地形・住居数等）が異なる部分が多いと思われます。安政・宝永地震津波の数値は、あくまでも参考数値としてお考えください。

Q: 東海・東南海・南海地震と3つの地震がありますが、それぞれどう関係しているのですか？

A: 過去に3つの地震は同時に発生したり、近い時期にそれぞれ単独で発生したりしています。例えば、昭和の東南海地震（1944年）が単独で発生した2年後に昭和の南海地震（1946年）が単独で発生していますし、宝永地震（1707年）は東海・東南海・南海地震が同時に発生しています。また、安政地震（1854年）の場合、東海・東南海地震が発生した翌日に南海地震が発生しています。